



## 【 子供がつくる運動会へ 】

- 運動会の開会式等での整列の隊形は、下学年を上学年がはさむ形となっています。「6年生は1年生をはさむ」「5年生は2年生をはさむ」「4年生は3年生をはさむ」とう具合です。これは、下学年が自分の力で行動できないとき、上学年が教えてあげたり支えたりするなどのお世話を



するためです。これは、平成6年度、当時の四辻校長先生のご指導で始まったと記憶しています。「主体性の向上」に向けて、大切なことだと思います。

- その目的を意味あるものにするため、**上学年が担当する下学年の子供を決めて**あります。これによって、上学年が責任をもって行動することができます。もう一つは、**教師は安易に口出しをしない**ことを共通理解しています。必要がないのに教師が口出しすると、**子供の意欲が薄れ、「主体性の向上」と逆行**するからです。子供からの求めがあるとき、教師が出るというスタンスをとるよう努めています。
- 可能な限り、**子供が自分の力で行動**する姿を求めています。そのために教師がすべきことは、「**事前指導**」と「**子供に任せること**」だと、改めて教職員に伝えています。それが、「子供が主役」となって、「**子供がつくる運動会**」になると思っています。

## 【 マスクの着用は？ 】

- これから暑い日が増えます。マスクについて、日常生活では**基本的には着用**します。ただし、**運動するときは外します**。また、運動しなくても、**暑い日は外します**。夏は、**熱中症対策が優先**です。また、マスクを外していても、人と会話する時はマスクを付ける、手で口を覆うなどの行動をします。
- このことを指導していますが、強制はできません。「**自分の命は自分で守る子供**」をは、状況によって自分で判断します。例えば、運動会の開会式練習で、「マスクを外しましょう。」と指導しても、マスクを着けている子供はいます。ただし、**命が危険**だと判断したら、**子供の意とは別に外させる**ことはあることをご理解ください。